1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571000193		
法人名	有限会社 メディビス		
事業所名	グループホーム げんきむら		
所在地	山口県光市島田2丁目22番11号		
自己評価作成日	評価結果市町受理日	平成28年5月9日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・連携病院が隣にあり、随時職員が通院介助を行い、連携している看護師が利用者の様子を把握しており、看護面でのサポートも充実している。ご家族が気軽に立寄れる様な明るい雰囲気でも安心して頂いている。 ・毎日、足浴している。・感染予防で食事前に、口腔内・手の消毒を徹底している。・各利用者の身体状態・精神状態を把握している。 ・1日の利用者全員分の情報を1枚の情報シートに、全職員で記入し、情報の共有化に努めている。また、それを、常に1ヶ月以上分を残し、過去の情報も共有できるよう努めている。 ・正職員が担当利用者を持ち、ケアプランをもとに、独自のフェイスシート、カンパレンスシートを作成し、一人ひとりの長・短期目標を立案し、その評価を職員会議で話し合い、利用者のニーズ、状態の把握、周知に努めている。 ・住み慣れた地元のゆかりの場所を(レク等を利用して)訪れ、地域との交流を深めている。 ・アットホームで接しているため、利用者との、信頼関係が出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>運営推進会議のメンバーに、新たに自治会長が加われ、地域の行事の紹介があり、利用者は地域の祭り(5月、10月)や盆踊りに参加されたり、文化祭には利用者がつくったはり絵の作品を出展されて見に行かれ、地域の人との交流につながるなど、会議の意見を活かしておられます。前回の外部評価を活かして、全職員で理念を共有するために、理念についての研修の実施や利用者や家族の思いや意向の把握、モニタリングのための書式を変更することで、全職員が共有できるように改善されています。災害時について地域との協力関係の構築の準備として、法人の参加も得て、災害対策委員会を設置され、3ヶ月ごとに会議を開催しておられ、今後は、地域の人や消防団員の参加を視野に入れ活動をされています。「地域の人と交流を深めていくことを大切にし、明るい笑顔と挨拶をわすれずふれあう」という理念の実施に取り組んでおられます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1年に1回理念研修を行い、「地域の方々と交流を深めていくことを大切にし、明るい笑顔と挨拶を忘れずふれあう」という理念を掲示し、それを共有して日々のケアに取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示している。理念についての内部研修を年1回実施している他、月1回のカンファレンス時や申し送り時、日常業務の中で話し合いをし、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加したり、ボランティアの方に来て頂いたり、地域運営推進会議などを活用し、地元の人々と交流している。	自治会に加入しており、自治会の回覧板や広報が届いている。回覧板は次に回している。地域の年2回の祭りや盆踊りに利用者と一緒に出かけている。文化祭には利用者の貼り絵を出品している。普賢寺の祭り、近隣施設の納涼祭、協力医療機関の敬老会、保育園で開催される敬老会等に参加している。中学生の職場体験や高校生、専門学生の実習の受け入れをしている他、ボランティア(コーラス、大正琴)の来訪がある。周辺の散歩時や馴染みのスーパーでの買い物時などに地域の人と挨拶を交わしているなど、事業所自体が地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議において認知症についての理解を広めている。また、多くの実習生を受け入れ実際に認知症の利用者さんと触れ合う事で理解や支援の方法を学んで頂いている。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価作成前後は会議で周知し、また、なぜ外部評価を行うのかを説明している。また、外部評価結果や改善策についても会議を行い、検討、実施している。	管理者が評価の意義について説明している。自己評価をするための書類を全職員に配布して記入してもらい、職員会議で話し合い、管理者がまとめている。職員からはケアの振り返りの機会になるという声がでている。評価を活かして全職員が理念を共有し、実践につなげるために内部研修を実施し、申し送り時やカンファレンス時などに話し合いをし、共有して実践につなげるなど改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、市の職員、民生委員、利用者、職員等で近況報告、提供しているサービスの説明、外部評価結果、施設内見学等を行い、意見交換し、サービス向上に活かしている。	会議は年6回開催し、新たに自治会長がメンバーに加入している。利用者状況、活動状況、ヒヤリハット、事故報告、災害対策と避難訓練、研修報告、外部評価結果、地域の行事等について報告し、話し合っている。メンバーから、地域の祭り、盆踊り、文化祭等について紹介があり、利用者はがはり絵の作品を文化祭に出展している他、盆踊り等に出かけていくなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。家族の参加は得られていない。	・家族の参加を得る工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市のそれぞれの担当課には、日頃から連絡を行い、また、市主催の研修会や、連絡協議会に参加している。また、事業所主催の研修会についても市の職員に報告して、サービスの向上に活かしている。	市担当者とは、電話や出向いて情報交換したり、事故報告や利用者状況等について報告し、相談をして助言を得ている他、徘徊見守りネットワーク会議やグループホーム連絡協議会参加時にも情報交換をしているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話などで利用者状況等の相談や情報交換をしているなど連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な施設内研修により、職員は拘束について、正しく理解しており、拘束をしないケアに取り組んでいる。また、契約時、やむを得ない場合についての、身体拘束の同意を得ている。	身体拘束についての内部研修を実施し、職員は理解しており、抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は日中施錠していない。外出したい利用者は職員と一緒に出かけている。ドラッグロックやスピーチロックについて理解し、取り組んでいる。気になることがあれば、管理者やリーダー、職員間で話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な施設内研修や、虐待防止マニュアルを事業所内に置き、虐待の仕組みや倫理等を理解し、また防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な施設内研修により、成年後見制度の制度や、仕組みを理解し、家族からの相談にも対応している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、施設内見学を含め、管理者、ケアマネ、職員での利用者、家族の質疑応答により、理解・納得を図っている。また、改定時には面談での説明や質疑応答に応じ、同意書を用いて理解を深められるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談受付シートを備え、苦情の窓口を決め、受けた内容や対応を各職員が閲覧出来るようにしている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。意見箱を設置している。面会時や電話の他に新たに相談受付シートを作成し、意見や要望を聞く機会を設けている。運営に反映するまでの意見や要望は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1か月に2回の会議の場で職員と意見交換をし、各種提案等の意見を尊重し、職員の環境整備に努めている。また、年2回、会社と面談を行い、そこでも、運営理念の意見を交換している。	月1回の職員会議や年2回の法人の面談で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中でも聞いている。職員から利用者の状態に合わせての勤務体制の変更についての提案があり、遅出の時間を変更するなどの業務内容の見直しをしているなど、反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	正職員も数を確保し、有給休暇の確保、資格手当、残業手当を設けている。また年2回評価をし、上司との面談を活用し、向上心を高められるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の施設内研修により、知識や士気を高め、事業所外の研修は出勤扱いにより、研修参加を促している。 また、外部研修にも積極的に参加している。	外部研修は職員に情報を伝え、段階や希望に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命報告し、資料は回覧して、共有している。今年度は高齢者の急変予測の対応など年4回参加している。月1回の内部研修は年間計画を作成して、理念やプライバシーと個人情報、身体拘束などを実施している。新人研修は管理者が業務説明をし、1ヶ月間は先輩職員より指導を受けながら、介護技術や知識を学んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模多機能の職員と交流を深め、地域密着として、共にレクリエーションを企画し行う機会を設けている。また、市主催の連絡協議会等を活用し意見交換に努めている。運営推進会議に他事業所の職員が参加し、また、職員が他事業所の運営推進会議に参加し意見交換に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	あらゆる話題や全職員からのコミュニケーションを取りながら、本人から話してもらえよう思いを引き出している。また、積極的に関わり笑顔を引き出せるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一年に一回理念研修を行い、全職員が家族と話せる事で、家族が心を開いて話せるよう努めている。また、雰囲気づくりや環境を提供できるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人の要望を第一に考慮し、必要とされている支援を見極めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の味付けを見てもらったり、散歩、買い物、会計やその他家事等、一緒に行い、時には利用者にて行ってもらいながら、学んだり、支えあう関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時は歓迎し、また、相互作用により、信頼関係を高めている。家族との外出も協力し、家族と過ごせる時間を増やせるよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が訪れたり、馴染みの場所に外出したりして、また、日頃から話題を出したりして、その関係が途切れないよう支援に努めている。	家族や親戚の人、友人の来訪がある他、電話での交流を支援している。自宅周辺のドライブ、懐かしい場所での紅葉狩りなどの支援をしている他、家族の協力を得ての外出、外食、墓参り、法事への出席などで馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファーや長椅子等を置いたり、また利用者同士が向かい合うような椅子の配置にしたりして、職員が会話できるよう援助しながら、利用者同士で関わり合えるよう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係を断ち切らず、いつでも相談に応じられるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の思いや希望の把握に努め、それが困難な場合も家族からの情報を得て、会議等で共有し本人の思いに沿った介護が出来るよう努めている。	入居時のアセスメントや家族から施行や要望を聞き把握している他、日々の暮らしの中で聞き取った内容を介護記録に記入し(ラインを引きわかりやすいようにしている)思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、昔の生活状況、現在に至るまでの生活環境等を得て、一人ひとりに合ったサービスを提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	希望に沿って外出したり、体調の把握、変化に気を配り、できる力を見極め家事を行ったりと、一人ひとりの一日を把握また、その人に合ったサービスの提供に努めている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回にケアカンファレンスを開催し、本人・家族の希望、担当者の意見、ケアマネの意見、医療関係者の意見等を取り入れて話し合い、全職員で共有し、介護計画を作成している。	毎月のカンファレンスで、本人や家族の意向やかかりつけ医、看護職、介護職員の意見を参考に、利用者を担当する職員と計画作成担当者が中心となって話し合い、介護計画を作成している。6ヶ月ごとにモニタリングを実施し、1年ごとに見直しをしている。利用者の状態に変化があった場合は、その都度見直し介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やそれに対するアプローチ・結果等を個別で記録し、また、申し送りやノートを活用し共有しながら、次のステップに繋げている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への定期受診の送迎、緊急時の昼夜の受診、自宅への外出や墓参りなど、その時の要望に応じて柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	積極的に外出することによって、地域との関わりから地域資源を把握し、また来所しやすい環境整備をし利用者の生活の質が上がるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診、検査の他に緊急時看護師に相談の上、医療機関と連携し、受診出来るように努めており、受診結果は家族に報告している。また、隣接医療機関に、ない科については、ご家族が昔馴染みのある医療機関に連れて行っている。	協力医療機関をかかりつけ医とし、事業所が受診の支援をしている。他科受診は家族の協力を得ての受診となっている。受診時に「受診メモ」を持参し、医師に情報を提供している。受診結果は面会時や電話で家族に報告し、職員間でも共有している。緊急時には協力医療機関や看護師と連携して、適切な医療が受けられるよう支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携施設内の看護師とその都度、相談、指示を受け、適切な受診、看護を受けられるよう努めている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と協力、情報交換に努めている。日常生活に早く戻れるよう担当医と話が出来ている。利用者入院時には全職員が定期的の様子を観に行き、情報交換も行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期を迎えた場合は、家族や医療機関、職員で話し合い、状況に応じてご家族様宿泊して頂く等共有し、実践している。また、契約時に重度化に対する事業所の方針を伝え理解を得ている。連携施設内の看護師とも連携し、日常生活の情報交換できるよう取り組んでいる。	重度化や終末期に向けて事業所のできる対応について契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族の意向を聞き、主治医や看護師、職員と医療機関や他施設への移設も含めて話し合い、方針を決めて共有して取り組むこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	マニュアルを作成し、ヒヤリハット・事故報告書に記録し改善策を検討し、未然に防げるよう周知、徹底に努めている。1ヶ月に1回、事故・ヒヤリを検証している。また、急変、事故発生時に備え、施設内研修を行い、訓練を行っている。	マニュアルを作成し、ヒヤリハットや事故報告書に記録している。当日の職員で対応策を検討し、申し送りして報告して共有している。毎月の職員会議で再検討し、必要に応じて介護計画に反映し、一人ひとりの事故防止に努めている。事故発生時に備えて急変予測、夜間急変時、無断外出の対応について、研修や訓練をしているが、全ての職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間想定含め消火・避難訓練を実施し隣接する事業所にも声掛け、参加協力をしていただいている。運営推進会議にて、民生委員、自治会にも声を掛けている。災害対策委員会を設置し、定期的に災害対策会議を行っている。	年2回、昼夜想定火災時の訓練を小規模多機能事業所と合同で実施している。利用者も参加して消火、通報訓練、避難誘導などの訓練をしている。法人の協力を得て災害対策委員会を設置し、3ヶ月毎に話し合いをしている。今後、消防団員や地域の人にも加わってもらい、協力体制ができるよう取り組む計画をしている。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修やマニュアルを活用し、一人ひとりの人格を尊重した対応をしている。また、個人の尊厳を傷つけるような言葉かけは注意し、誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。	マニュアルを整備し、内部研修で一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応について学び、排泄時や入浴時など配慮した対応をしている。不適切な対応があれば管理者やリーダーが注意している他、職員間でも話し合っている。個人情報の管理に配慮している他、守秘義務についても理解している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	開かれた質問により、自己決定できるよう努めている。また、思いを伝えられたり、汲み取れるような関係づくりに心がけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールはあるが、体調や要望に臨機応変に対応し、一人ひとりのペースを崩さず、1日1日が楽しく安心して過ごせるように努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感のある服装の着用を促し、好きな服装で過ごしてもらえるよう支援している。また、起床時着替える際、身だしなみに配慮している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い出しから調理手伝い、片づけまで利用者とともにできるよう努めている。時には、外食や昼食会を取り入れ、月1回手作りおやつと誕生日会イベント、また、職員も同じ時間に食べ、コミュニケーションを取りながら、食事を楽しめるよう支援している。	昼食と夕食の副食は配色を利用し、朝食づくり戸主食の炊飯は事業所でしている。利用者は下ごしらえ、台拭き、片付け、食器洗いなどを職員と一緒にしている。月1回のおやつづくり(たこ焼き、きな粉餅、ホットケーキなど)、年2回の外食、併設の小規模多機能型居宅介護事業所との年3回の合同昼食会、誕生日のケーキなどの他、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療機関受診時に、栄養バランスの指導を受けている。また、食事量や水分摂取量を個別に記録し、必要量確保できるよう支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し、職員が見守りや一部介助など行うことにより、口腔状態の把握、本人の力に応じた口腔ケアを支援している。また、夜間は必ず義歯を洗浄し、職員が消毒が終わるまで保管し清潔も保てるよう努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、排泄が無ければ定期的に声掛けや誘導にて促している。 また、水分補給も促し、食前食後に誘導したり、排泄しやすいタイミングにも配慮している。	情報シートを活用して、一人ひとりのパターンを把握し、習慣を活かして、言葉かけや誘導をでトイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を使用したり、乳製品を使用したりと、食材やメニューを工夫している。また、散歩や買い出しなどで、歩いてもらったり、レクリエーションに体操を取り入れたり、自然排便できるよう取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴する時間帯は大まかに決めているも、利用者の希望や、状態によって日々臨機応変に対応している。また、昼の時間帯で入浴することで、万が一の事故時でも医療機関や看護師と連携でき、安心して入浴できるよう支援している。	入浴は、毎日13時30分から15時までの間可能で、希望や体調に合わせて支援している。冬場は週2回、夏場は週3回入浴ができるように支援している。入浴をしたくない人には職員の交代、曜日や時間の変更、声かけの工夫、家族の協力を得るなどの工夫をしている。体調に応じて足浴、清拭、シャワー浴などで対応し、個々に応じた入浴の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息時には、ソファ等に誘導し午睡しやすい環境を整え、活動時のフロアと就寝時のフロアを分かれていることにより、睡眠リズムが調整できることや日中とのメリハリにより安心して眠れるよう支援している		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師と情報共有できおり副作用、用法、用量について理解している。また、表を作成し利用者一人一人の薬の数や種類を全職員が共有できる環境整備をしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレク等により、充実感を味わって貰い、おやつ、飲物は利用者の体調を見ながら、飲んで頂いている。また趣味等の個別でレクを行い、家事手伝い以外にも、行事を設け1年を通して楽しみ事や気分転換が出来るよう努めている。	テレビやDVDの視聴、新聞や本を読む、季節行事(新年会、豆播き、クリスマス会、そうめん流しなど)、風船バレー、輪投げ、漢字クイズ、将棋、囲碁、習字、ぬり絵、貼り絵、折り紙、下ごしらえ、台拭き、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみ、ゴミ捨て、カラオケ、口腔体操、早口ことばなど活躍できる場面づくりや楽しみごとの支援、気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて、散歩やドライブを行い、ドライブでは出身地や市外まで出かけている。本人の希望や家族の協力で墓参り、一時帰宅、家族との外出など支援できるよう努めている。	周辺の散歩、買い物、初詣、普賢祭、地域の祭り(年2回)、盆踊り、文化祭、協力医療機関の敬老会、保育園の敬老会、季節の花見(梅、桜、紫陽花、コスモス、紅葉)、自宅周辺のドライブ、外食の他、家族の協力を得ての外出、外食、墓参り、法事への出席など戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、必要に応じて、少額を持ち使用できるよう支援している。また、買い出しなどでレジで使用してもらうなど、お金の使用方法を忘れない工夫も図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話ができる。また、手紙のやり取りができるよう、一緒にポストまで投函に行ったりし、家族や友人とコミュニケーションが取れる実感を持てるよう支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには、ゆったり座れるソファを設置し花や装飾物で季節感を味わい、温度・湿度調整に努めている。また、ベランダからの日差し、台所からの音や匂いで、居心地良く生活感を感じられるよう努めている。	共用空間にはクリスマスツリーやシクラメンの花を飾り、室内に音楽が流れている。壁には利用者の習字作品や写真が飾ってある。長ソファや2人掛けソファを配置して、利用者が思い思いに過ごせる居場所となっている。換気、温度、湿度にも配慮し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長ソファ、2掛けソファ、各自個別のテーブル席、畳の部屋で一人一人に合った居場所を提供できるよう工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や、大切にしているもの、プレゼントなどを各居室に置くことで、プライベートな空間を作り寂しい思いをさせない様に工夫している。また、以前なかった、カーテンを設置した。	ダンス、衣装掛け、衣装ケース、机、椅子、テレビ、ラジオ、時計、本、などの使い慣れたものを持ち込み、家族写真やカレンダー、誕生日のお祝いの色紙などを飾って、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやスロープ、個別の設備や道具を設置しているが、ケアカンファレンスなどを通して一人ひとりのリスクマネジメントを話し合い、対応することで、安心かつ出来るだけ自立した生活を送れるよう支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム げんきむら

作成日: 平成 28年 4月 14日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	家族の参加を得る工夫	家族を含めた、2か月に1回の運営推進会議の実施。	日頃より、家族に連絡、声かけを行い交流を深めることで、運営推進会議の参加を得られるように説明を行い、参加協力を得る。	12ヶ月
2	35	全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の訓練の継続	全職員による、応急手当、初期対応の訓練、事故報告書、ヒヤリハット報告書の実例検討実施。	職員会議、ケア会議で事故報告・ヒヤリハットの対応策、評価及び再検討行う。応急処置や初期対応の順序の把握に努める。	12ヶ月
3	36	地域との協力体制の構築	地域住民を含めた、年2回の避難訓練を実施。	日頃より、地域住民に声かけを行い交流を深め避難訓練の参加協力を得られるように呼びかけ、参加協力を得る。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。